

自主防災組織について



【自主防災組織とは】

「自分たちのまちは自分たちで守る」という意識に基づいて、地域住民が自主的に結成した「地域防災の中核」となる組織のことをいいます。

大規模な災害は、同時多発的に被害が発生します。そのとき、行政は全力で、被害の拡大を防ぐ活動を行います（公助）、特に発生初期の段階では、どうしても地域住民の連携による自主防災活動が不可欠となります。

こうした自主防災活動は、一朝一夕で成しうるものではありません。

そのため、日頃から、防災に関する問題意識を持ち、市民一人ひとりが自分の身は自分で守り（自助）、自分たちのまちは、地域住民が互いに協力し合って自主防災活動に取り組むこと（共助）が重要になります。

過去の災害の中でも、特に阪神・淡路大震災は、数多くの方が犠牲となった非常に大きな災害でした。

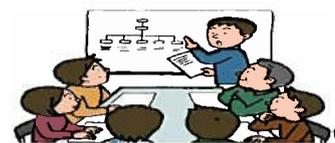
この震災では、倒壊家屋等に閉じ込められた人の多くは、家族や地域住民による活動によって救助され、また、その他にも、行政の支援が行き届くまでの間、地域の連携・協力により様々な自主防災活動を通じて、地域の被害を最小限度にとどめるなど、改めて「自主防災組織＝共助」の重要性を教訓として我々に示しました。

尊い「命」や痛ましい犠牲の上に成り立つ、こうした貴重な教訓を忘れることなく、「自助」「共助」の重要性を再認識し、地域の実情に合った実効性のある「自主防災組織」の活動に取り組みましょう。

【自主防災組織の活動内容】

○平常時には災害に対して地域の防災力を最大限に発揮できるような体制を準備します。

〔防災知識の普及啓発、防災訓練の計画・実施、
防災資器材の点検・整備
地域コミュニティの活性化、地域特性の実状把握 など〕



○災害時には、地域住民が連携して、減災活動を実施します。

〔情報収集広報活動・初期消火活動・救出救護活動・
避難誘導活動・物資調達分配活動・要援護者支援活動 など〕

